



空と雲と、京都の路地は奥に深いです

yo



今回は四条烏丸（しじょうからすま）で地上に上がり、南に下って行きます。  
散髪屋さんの窓なのですが、ひさし部分の古風なタイルが、、、  
ではなくて、お客さんの頭が、、、



おばんざいをバイキング形式で提供する店で、朝からやっていました。  
朝ご飯をガッツリ食べるのは、ホテルの朝食ぐらいの私向きのお店では  
ないのですが、窓枠が“漢字”のように見えたので。



京料理屋さんです。建物が微妙に右に傾いているのがわかりますか。

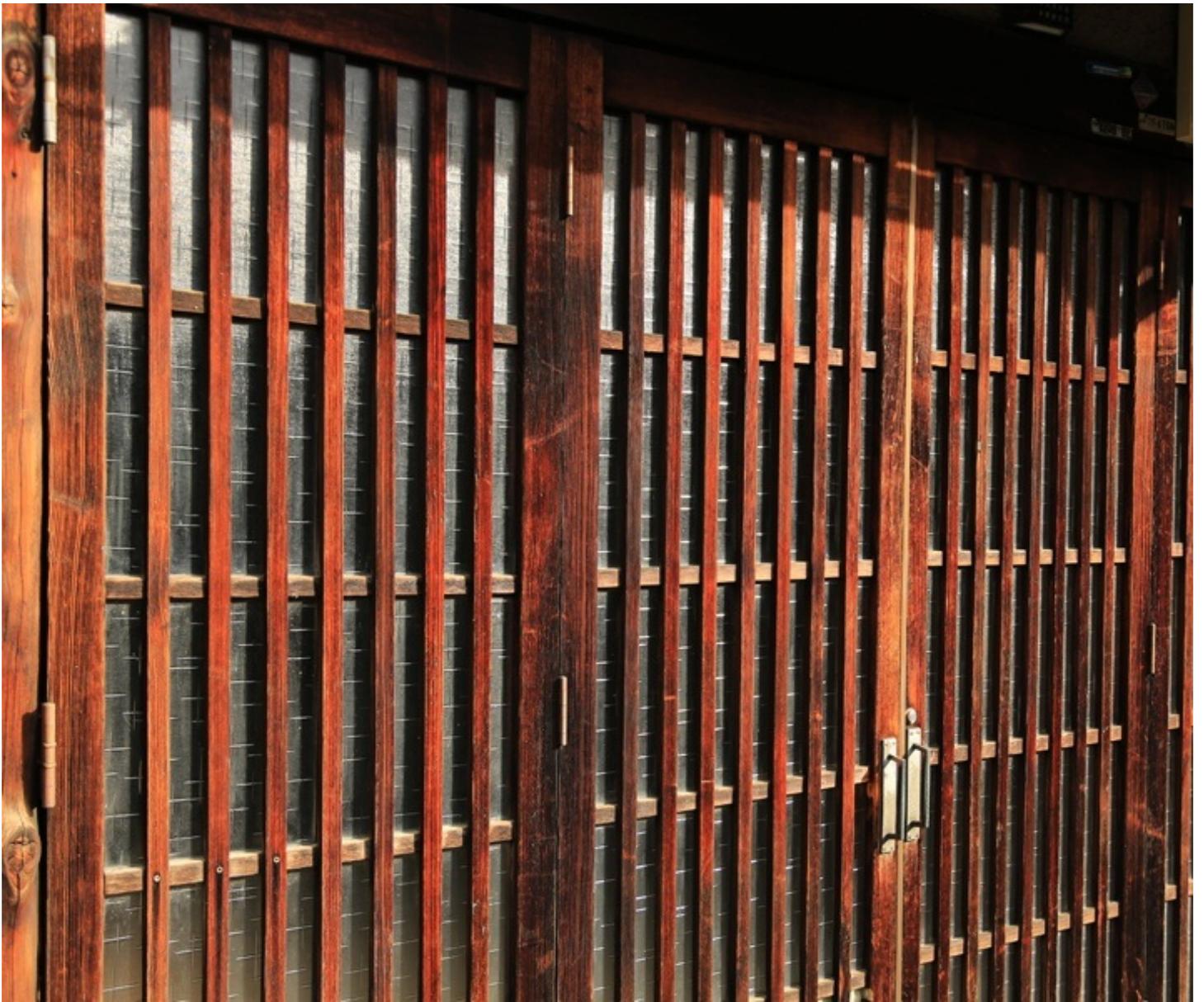
ちなみに京都のお家は、微妙に傾いているのは普通です。

入り口らしきものは、この左手に有るのですが、それはお勝手のようにで客用の入り口が見えません。なので仕出し専門のお店かもしれません。ほんまもんの京料理は、仕出し料理やという事を聞いた覚えが有ります。



---

この奥にもお店があるようですが、旅行者には敷居が高い。  
パリもそうですが、こんなに食べ物屋が沢山あって、  
商売をやって行けるのが不思議です。



このガラスもいいですね。光の加減で、模様部分が光ってええ感じです。  
蝶番がついているので、両側にスライドするのではなくて、中折れに開く扉のようです。

開口部が大きくとれるので、大きなものを出し入れするのでしょうか。



今回も色々貼ってある。

真ん中に有るのは”水洗” 昔のトイレは水洗じゃなかったですからね。

アマチュア無線は今回初めてみました。

ビックリなのが、電話番号が書いてある事。そのまま玄関開けて”こんにちは”と言えばいいのに。

(上は画像をいじくってあるので、この番号にかけても誰も出ないと思います。)



骨董屋さん。螺鈿で鳳凰を描いた、引き出しつきの漆塗りの小箱。

浮世絵を入れた赤絵のお皿。明治期の輸出用かも。

貝合わせの彩色は、友禅染の絵柄を思わせます。

金泥の縁取りがあり、きっと高貴な方の持ち物だったのでしょうか。

なにげに置いてありましたが、結構な値札がついていると思います。

骨董なので、くすんだ感じになっていて、それが普通だと思っていましたが、  
実は本当の高級品は、桃山時代のものとかでもピカピカだということを  
先日初めて知りました。



この扉（ビールとコーヒーのお店）のガラスも実に良いですね。

こういう古い貴重なガラスがどんどん失われて行っています。

作れない事は無いんですが、作り手が居なくなっているでしょうね。  
作り手が居なくなるということは、デザインの継承が失われるということ。

もったいない。



パン屋さんではなくて、パンの作り方を教える工房のようです。

料理本見たら作れるやん、と私なんかは思うんですが、  
集まって、喋って、作って、喋って、食べて喋りまくるとするのが  
いいんでしょうね。



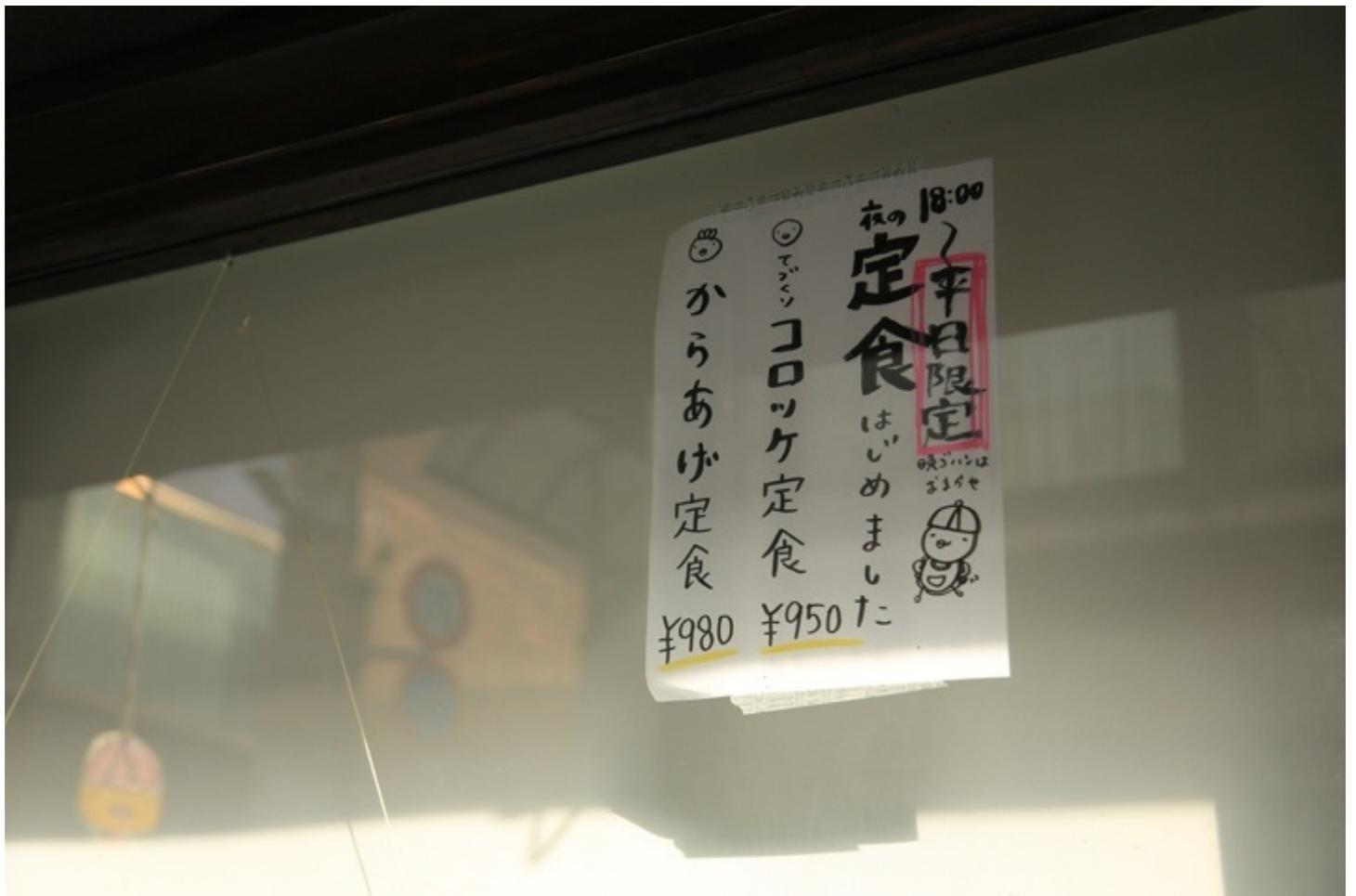
格子ごしに中庭がすけて見えます。食べ物屋さんです。  
上の丸電球がいいかんじですが、光り方を見ると白熱電球ではなくて  
ボール電球のようですね。

JE3EWK



---

この細い路地の奥にも6軒のお家が有るようです。  
表通りと違って、静かなんやろうな。



このお店、開店は”起きたとき”だそうです。  
へえー、コロッケのが¥30安いんや。



いっぺんいってみよーっと。



青に惹かれてシャッターを切ったんですが、こういう暖簾で、営業中っていう目印と、通りすがりに外から中を覗けないような目隠しと、両方の役割をしていますね。

柱の足のところに金物をつけているのは、おそらく傷み止めでしょう。ああ言うところから湿り気が入って来て、徐々にちびていくんですよね。



まるっとな。



もう、本格的な軒下ガーデニングですね。  
明らかに歩道ですけど、ここ。

でも、昔の朱雀大路は幅が100m以上あったはずですが、  
道の両側から庶民がだんだん浸食して行って、細くなって行ったそうなので、  
京都の伝統と言え言えなくもない。



こういう喫茶店を見ると、昔の経験を思い出します。

「なににしまひよ。」とおばちゃん。

「れーこー。」とはアイスコーヒーのこと。

奥に向かって、

「れーこーいっちょう。」

といつつ、おしぼりをひろげて、

「にいちゃん顔拭いたるか。」

サービス言うより、暴力や。



けろちゃん。  
年季が入って汚れてるけど、新しいマフラー着せてもらって、  
大事にされてるみたい。

ケロちゃんみると、学生の時に聞いた、あのケロちゃん伝説思い出すなあ。



こういうお宅ちょこちょこ見かけます。無抵抗に覆われているのかと思いきや、  
必要な空間はちゃんと確保してあるのがおかしい。  
特に、電気とガスのメーターのところ。

で、思い出したんですが、京都の電気とガスのメーターは何かと工夫がされているので、  
その画像もちょっと集めたいなあ。



これまで見た中で、最大の鍾馗さん。  
子供の抱き人形ぐらいの大きさがありました。大変立派です。  
顔も衣装の模様も細かいんですが、足を針金で止めてあるのが、  
なんともいけてなくて残念。

画竜点睛を欠く、ってやつですな。



お誂えの呉服屋さんだそうです。  
一生縁がないですけど、暖簾の紋がおもしろい。

左は古銭の寛永通宝の裏の青海波紋に京の字をはめて、屋号の錢京。

右はいいとして、真ん中は、大黒さんの絵銭のようです。

縁起物として入れた図柄ですなあ。



なんと、目薬屋、も驚きなんですが、  
こういうタイプの看板（壁から直角に突き出す）を見たのは初めてです。



覗き見はあまりいい趣味ではありませんが、花が活けてあります。



このあたり、牛乳の箱多いです。



なんて斬新なマークなんでしょう。



ここにも鍾馗さん。  
他県で、どうなんでしょうね。



ステンドグラスの、壁に移った色が、まるで光がゆらめいているようにも思えます。

初期のステンドグラスと時代が下ってからのを比べると、生産技術が発達した新しいステンドグラスの方が、品質が劣化していくそうです。

初期のステンドグラスは、職人がもてる技術や想像力、工夫、限界への挑戦が込められているのですが、後期のものは、ただ製造してあるだけ。

いまちまたにあふれている、大量生産された全てのものがそうであるように。



---

動くのか、動かないのか、ホトトギス。

動かしてみたい、、、。



まるで相輪の水煙のような盆栽。



この鍾馗さん、閻魔さんに見える。



突き出し型の看板発見。ガーゴイルに似てるなあ。  
このあたりは、仏具や法衣や、坊さん関係のお店が多くなります。



2Fベランダ庭園と鍾馗さん。役者が揃ってる。



松原牛乳は京都ローカルな牛乳メーカーだそうです。（今はもう無い）  
このシュールな牛のデザイン。ピカソとでも呼ぶしかないです。  
何に使ってるんやろう？



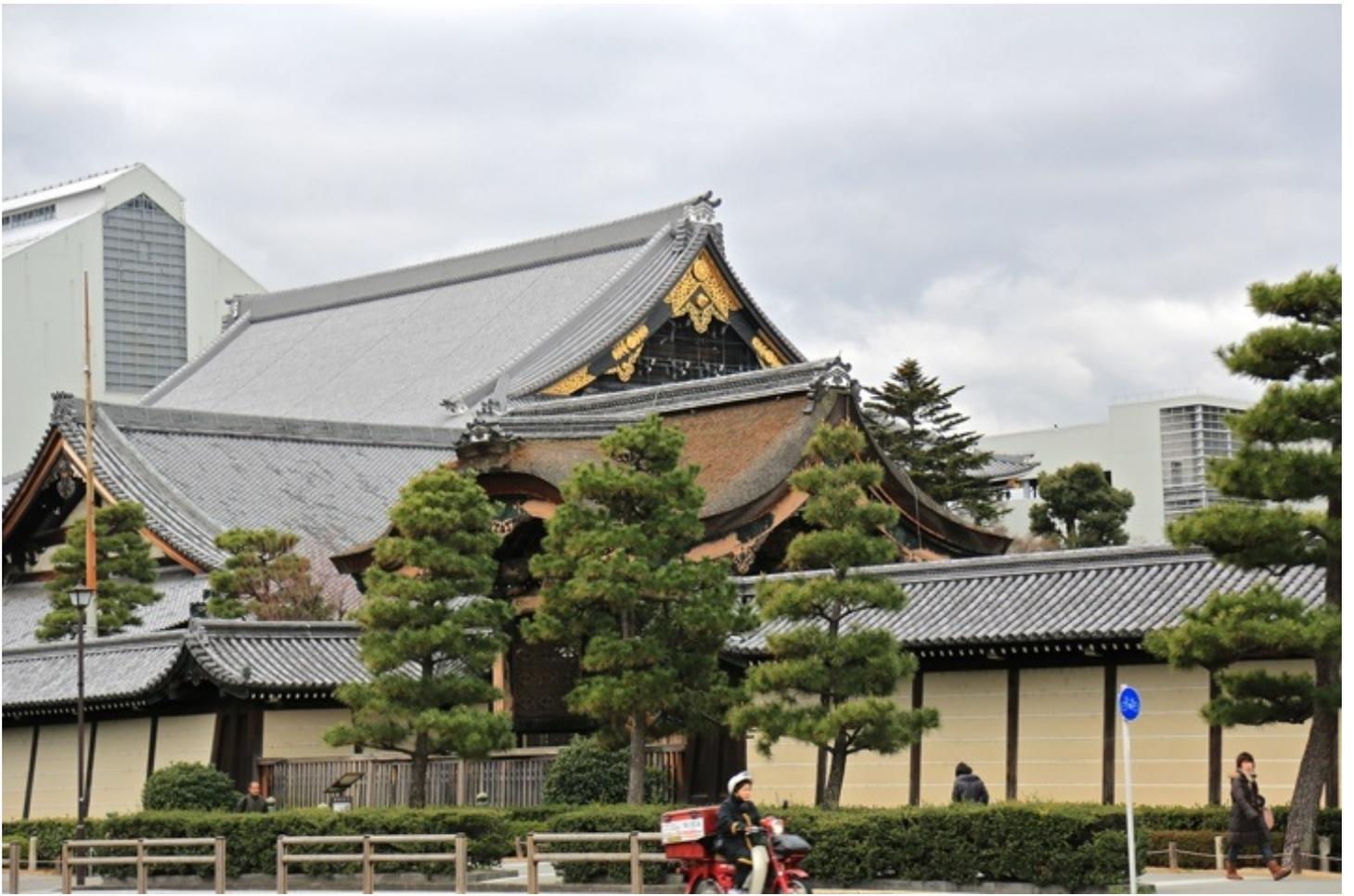
今日も走る、郵便配達。そして路地の奥に立派な神社が。  
この手のも含めると、京都市内だけで何社あるんでしょうか。  
平安京以来、魍魎魍魎が跋扈する町なので、辻々に神様もいはるのか。



京都は神社も多いんですが、お寺ももちろん多くて。  
これはその前庭なんですが、このお隣も同じようなお寺さんでした。  
さすがに2軒並んでるところって、あまり見ないです。



この並びは旅館と仏具関係のお店ばかりで、それというのは、、、



東本願寺があるから。

全国にある末寺やその檀家さんが、何百年も前からここにお参りに来てはるわけで、  
その関係でお宿とか仏事のお店なんかが多いんですね。



菊の門 明治期に作られたものだそうです。私の趣味には合いません。



これがまた、専門分野ごとに店が分かれていて、面倒なことです。



レンタサイクルのお店が烏丸通を挟んだ向かいに有りまして、外国人ファミリーが丁度借りて行かれるところでした。



京都に泊まるのなら、大きなホテルも幾つかはありますが、こういう規模の旅館もいいかも。ただ、この旅館は見かけも良くて居心地良さそうですけど、そうでないところも一杯ありました

。

修学旅行生が泊まるのは、もう少し規模の大きい旅館ですが  
全国どこの観光地にもありそうな旅館です。



最近は中学生でもキャリーなんだなあ。  
みんな楽しんでる？



見上げれば京都タワー 京都人のセンスはよくわからん。  
京都駅前まで来ました。ちょっとスタバで一服した後、四条烏丸に戻ります。



これはですねえ。昭和の戦後のころ、日本のヴェスパ、ラビットというスクーターが  
ありまして、その販売店ですねえ。いつか買いたい。  
いまは牛井屋さんですけど。

大番  
地  
好  
和



---

こ、こ、これは！  
なんという超絶的なセンス。

そしてお好み焼、と書いてあるけど本当にお好み焼屋なのか、それもデザインなのか！  
↑ ちょっと面白がり過ぎ。



いかにも仕立ての良さそうな洋服屋さん。  
そして京都ガスやらNHKやらの標識がちゃんと貼ってある。



いままでどうして見落としていたのか。我ながら情けない。

他の家にもきっとあったはず。

この三角の、自転車用のスロープminiですね。

しかも、わざわざ外って書いてあるところが、細かい。どっちでもいいやん。

ああ、でもこの格子戸もなんかへん。

引き手式の扉に見えるのだけど、その半分がスライド式に成っている。

どういう使いからするの？

確認しようにも、他の写真が無い、、、我ながら、、、。



---

消化器にバケツ、そして井戸ポンプと来れば、完璧な消火態勢、、、と  
思ったんですが、この手押しポンプ壊れてました。なんとか修理しようよ。



### 風船唐綿

あのイガイガの実から、こんなに可愛い種が出て来るとは。  
あの可愛い花からこのイガイガの実というのも意外ですけど。  
イガイガだけに、、、。



ほんと、猫に嫌われてます。



今回の路地散歩はここで終わり。

菅大臣神社です。

「東風吹かばにほひおこせよ梅の花 主なしとて春なわすれそ」と  
詠んだのはここだそうです。

たまたま来ちゃっただけなんですけどね。

梅は、もう少し先のようにです。

そろそろ春の観光シーズンが近づいてきました。

写真集

- 「空と窓と、京都の路地は奥に深いです mi」 <http://p.booklog.jp/book/82160>
- 「からくれないに ni」 <http://p.booklog.jp/book/81713>
- 「bleu, jaune, vermillon」 <http://p.booklog.jp/book/81111>
- 「H.45」 <http://p.booklog.jp/book/80229>
- 「Fly me to Paris I～XIV」
- 「祇王 こけのころも」 <http://p.booklog.jp/book/74954>
- 「空と雨と6月と」 <http://p.booklog.jp/book/74984>

小説

- 「ネガティブズ2」
- 「ネガティブズ」 <http://p.booklog.jp/book/73051>

- 写真集「空と僕と自転車とni」 <http://p.booklog.jp/book/72996>
- 写真集「空と僕と自転車と」 <http://p.booklog.jp/book/72092>
- 写真集「空と椿と木蓮と、そして花水木」 <http://p.booklog.jp/book/71344>
- 写真集「空と雲と、ぜんぶ鳥のいたずら」 <http://p.booklog.jp/book/70700>
- 写真集「空と雲と、ときどき春の野を行く」 <http://p.booklog.jp/book/70137>
- 写真集「空と月と、夜桜デート」 <http://p.booklog.jp/book/69415>
- 写真集「空と木と、ときどきの梅暦」 <http://p.booklog.jp/book/68722>
- 写真集「空と窓と、京都の路地は奥に深いです ni」 <http://p.booklog.jp/book/65536>
- 写真集「空と窓と、京都の路地は奥に深いです」 <http://p.booklog.jp/book/64153>
- 写真集「空と木とたまに月」 <http://p.booklog.jp/book/62540>
- 写真集「からくれないに」 <http://p.booklog.jp/book/61473>
- 写真集「空と雲と、ときどき月」 <http://p.booklog.jp/book/36294>
- 写真集「夢みる桜」 <http://p.booklog.jp/book/45286>

「黄金の麦畑」

- 1.Largo <http://p.booklog.jp/book/4366>

第1回 ～ 第41回

「黄昏の王国」

- イーリアス編 <http://p.booklog.jp/book/4051>
- アリシア編 <http://p.booklog.jp/book/5115>

— 僕カノシリーズ —

- 「僕と彼女に殺された理由(わけ)」 <http://p.booklog.jp/book/31906>
- 「僕と彼女の選択の事由(わけ)」 <http://p.booklog.jp/book/35498>
- 「僕と彼女はそれしか答えを見つけられなかった。」 <http://p.booklog.jp/book/36101>
- 「僕と彼女はそれでも答えを探し続ける」 <http://p.booklog.jp/book/36817>
- 「僕と彼女と複雑な関係者たち」 <http://p.booklog.jp/book/37232>
- 「僕と彼女と単純な関係式」 <http://p.booklog.jp/book/37731>
- 「僕と彼女と校庭で」 <http://p.booklog.jp/book/38409>
- 「僕と彼女と校庭で 夏」 <http://p.booklog.jp/book/38977>
- 「僕と彼女のアリア」 <http://p.booklog.jp/book/46524>
- 「僕と彼女のインベンション」(次回)

— その他 —

- 傘がない <http://p.booklog.jp/book/29799>
- 夕暮れの赤ちようちん <http://p.booklog.jp/book/28066>
- いもうと <http://p.booklog.jp/book/27414>
- サマータイム・ブルーズ <http://p.booklog.jp/book/26511>
- 危険なドライビングマジック <http://p.booklog.jp/book/25811>
- デフラグメント <http://p.booklog.jp/book/25211>
- インフルエンズ あのころの僕たち <http://p.booklog.jp/book/24211>
- 花舞い、名残り雪 <http://p.booklog.jp/book/23211>

- 詞画集「ただ憧憬れだけを」 <http://p.booklog.jp/book/22211>

- 画集「彼と彼女の表紙画集」 <http://p.booklog.jp/book/21211>

